



## 新年明けまして おめでとーうございます

今年は一斉地方選挙の年で、県議会議員の1名から2名への前進や広島市議会議員の議席拡大など選挙のある自治体での日本共産党の躍進に応援をよろしくお願いいたします。「要求あるところに共産党あり」と全国各地で日本共産党の地方議員が活動をしています。総務省の資料によると、日本の地方議員数(都道府県・市区町村議員)は、2009年末現在、日本共産党が3026人、自民党が3048人、公明党3008人、民主党1534人、社民党450人、無所属議員が2万5569人です。

私は、今年の8月で議員生活20年を迎えます。市民の皆さんの要求・願いをどれだけ実現できたか、不十分なことばかりですが、あたりまえの市民の感覚だけは持ち続けて、議員活動を続けている積りです。

ヨーロッパのように、力のある

企業は社会的責任を果たし、働く人たちを大切にすること、あたりまえのルールある資本主義社会に向けた一歩を踏み出すこと、軍事同盟に頼らない憲法9条を生かした理性的・道理的な外交のできる国に方向転換することが何よりも大切です。格差と貧困の拡大から、みんなが社会進歩を実感できる豊かな社会をつくること、政治の最大の仕事だと思っています。

市政の仕事は、住民の安全・安心な暮らしを保障することです。国民健康保険税の値上げ案が浮上してきています。誰でも安心して医療が受けられるあたりまえの国民健康保険制度の原点を忘れてはいけません。子どもの医療費の助成は、少なくとも中学校卒業までに拡大させたいものです。国政から始まって、障害者福祉・介護保険・保育制

度すべてにおいて、福祉に受益者負担の考えが色濃く出てくるようになりました。庄原市政にも、市民は行政サービスの顧客で受益者との考えが根底に流れています。憲法

### 庄原市と環境ベンチャー企業(株)ジュオン)との

### 共同事業に関する特別委員会開かれる

25条の生存権はどこへ行ったのでしょうか。今年、戦後政治の原点、憲法の原点に立ち返る市政運営を求めて生きたいと思っています。

産業振興も地域振興も、今がんばっている市民を応援する地に足のついた施策から出発するべきだと思います。市の重点戦略プロジェクト(農業自立・観光定住・バイオマス

12月27日、議員全員による上記特別委員会が、マスコミ関係者・傍聴者多数の中、開催されました。最初に、当市(市長は他の公務で欠席で国光副市長)より、11月30日の破産申立て以降の経過報告がありました。企業側の代理人、戸田弁護士、所属する広島市内の事務所、戸田

参加のもと、12月16日と21日の2回の協議を行った。関連3社の破産を避け、自立再建に向けて取り組むことを確認し、次回は新年の1月19日に予定されている、というものでした。なお、「市は債権者の立場に無く、了承を得て参加している」との説明がありました。

実証実験棟の土地や建物の無償貸与、東城温泉のチップボイラー関係の土地の無償貸与、国からの数件の交付金の手続きをしています。グリーンケミカルが破産した場合、国からの交付金4億6000万円は市が負担しなければなりません。そもそも市がバイオマスタウン構想の具体化の中で誘致した共同事業なのに、他人事のような説明です。さらに、「市はグリーンケミカルとの共同事業を行って

原市の顧問弁護士、副市長のこの説明には、問題点が多く本当に驚きました。前々回の通信108号に書いたように、(株)ジュオンには市としても

た。さらに、「市はグリーンケミカルとの共同事業を行って

2011年元旦

谷口たかあき

おり、ジュオンやコスモエースとは直接契約関係等に無いので、負債総額等の調査もしていないし、報告を受ける義務も無い」といった説明にはあいた口がふさがりませんでした。さすがに、私も、「市はジュオンと基本協定を締結したことがこの共同事業の出発点で、ジュオンにはたくさんの援助もしている、3社はまったくの同族会社ではないか」と強く指摘しました。

垣内委員長の進め方も、なるべく質疑は早く終結させようとの態度が見え見えで先が思いやられます。私も含め議員がもつと調査能力を高めないといい結果にならないことだけは確かです。

### 私の問題意識から その一部を

① エタノール実証実験棟は、平成19年11月から24年3月まで、市が㈱ジュオンに無償提供しているのに、なぜ大方の忠告を無視して、大型プラント建設に直ちに取いかかったのか。十分な準備が必要ではなかったのか。  
② なぜ、布野で実績があり、実証実験もしている㈱ジュオンでな

く、別会社グリーンケミカルが大規模プラント事業を手がけたのか。しかも、この庄原工場の土地と建物はコスモエースの所有になっているのなぜか。国の補助金は機械設備だけが対象というけれど、施設は一体であり、不自然ではないか。

③ ジュオンの独自技術とされる木質組織の粉碎処理(メカノケミカル処理)は、消費電力が大という難点やそもそも大型プラントに適用できるのか、いまだに疑問です。サンプル商品にも引き合いが無かったようだが、国の交付金を受けの際、収支計画など経営見通しをどのように立てて申請したのか。

④ 東城温泉への㈱ジュオンの熱供給契約は、平成36年3月までのに12月8日から、灯油に切り替えている。市との契約違反へどのように対応しようとしているのか。また、ジュオンは庄原市内で森林が吸収する二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)量を排出権として、全国で始めて企業に小口販売している(平成19年3月から契約)が、その契約はどうなるのか。

## 《里山に生きる自然と文化を訪ねて》 栗田の井河内大山に登る

12月初旬、気持ちよく晴れていましたので、栗田の井河内大山に登ることにしました。この山はお椀に飯をこもり盛った形から「多飯ヶ辻山」(おおいがっじやま)(1040.3メートル)と呼ばれます。その頂上近くに「大

仙社」があつて、塩原の多飯山医王寺の鎮守の社でもあり、伯耆の大山寺の直轄の御免拜所としての格式をもつて、近隣近郷の大山信仰の中心となつていた、と言います。塩原の人たちは、この山を「塩原大山」と呼び、井河内の人たちは、「井河内大山」と呼ぶそうです。

登り口は、塩原側からと井河内側からの二コースあります。今回は、井河内側から登りました。それというのも、地元の人がしつかり下刈りもして頂上へ登る道を整備されたからです。栗田を通り抜け、

山、それより左側に小奴可の白滝山が見えます。そして、山頂から南東側に少し下がる、眼下に田森地区が一望できます。そして中国山地の低い山々が一体に開けています。これがまた素晴らしい。ここから眺める初日の出はさぞかし荘厳で雄大なものとなることでしょう。(な)



山頂からの栗田方面の眺め



井河内から見る多飯ヶ辻山